

発生予察情報

特殊報第 2 号

平成 26 年 3 月 20 日
秋田県病虫害防除所

アスパラガス疫病の発生について

1. 病虫害名：アスパラガス疫病 *Phytophthora asparagi* Saude & Hausbeck

2. 発生作物：アスパラガス

3. 発生の経過

平成25年7月、県南部の露地アスパラガス栽培ほ場において株の枯死及び若茎の軟化腐敗症状が確認された。同ほ場の株を採取し、秋田県立大学と秋田県農業試験場に病原菌の同定を依頼したところ、アスパラガス疫病 *Phytophthora asparagi* であることが確認された。

国内においてアスパラガス疫病の発生は富山県 (*P. erythrosetpica*)、福島県 (*Phytophthora* sp.)、愛媛県 (*P. nicotianae*) で報告されている。

4. 病徴及び生態

(1) 本病は、茎部に水浸状、後に白色の菌叢を含む周縁が褐色の病斑を形成する(図-1)。病徴は茎枯病と似ているが、本病は病斑に黒色の柄子殻を生じないため区別できる。また、地下部では鱗芽群や貯蔵根が褐変、腐敗する。このため、茎葉の生育が抑制され、被害が大きい場合は黄化・枯死に至る(図-2)。若茎では地際部を中心に水浸状に軟化腐敗するほか、曲がりなどの奇形になる。

(2) 本疫病菌は生育適温が25℃付近で多湿条件を好み、梅雨時期(立茎時期)に被害が多くなる傾向にある。

(3) 罹病残さや土壌中に耐久体を形成し、翌年の発生源となる。また、水や土壌の移動により伝搬する。

5. 宿主範囲

本県で確認されたアスパラガス疫病菌 (*P. asparagi*) の寄主植物はアスパラガスとリュウゼツランが報告されている。

6. 防除対策

前年に発病を確認したほ場では以下の防除対策を実施する。ただし、前年に被害が大きかった場合は、ほ場中の菌密度が高いと考えられることから、アスパラガスの栽培歴のない場所への新植も検討する。

発病が確認されていないほ場であっても近隣で発病が確認されている場合は(1)～(3)の耕種的防除を実施する。

(1) 発病が確認されたほ場の土壌を他のほ場に持ち込まないようにする。

(2) 畝間に停滞水が生じないように管理するとともに、明渠を掘るなどほ場の排水対策を行う。

(3) 敷わら等を行い、降雨による土の跳ね上がりを防ぐ。

(4) 発病茎は早期に刈り取り、ほ場外で処分する。

(5) 前年に発病を確認したほ場では立茎開始後からフォリオゴールド、ダコニール1000、プロポーズ顆粒水和剤、ワイドヒッター顆粒水和剤のいずれかを降雨前に散布する(表-1)。新たに発病した場合は、上記の薬剤を速やかに散布する。薬剤散布を行う場合は薬剤の使用時期、希釈倍数及び使用回数(TPNを含む農薬の総使用回数)に注意する。

7. 資料



図-1 茎部の病斑(平成25年8月撮影)



図-2 発病株(平成25年7月撮影)

表-1 登録薬剤一覧

薬剤名(種類)	使用時期	希釈倍数	散布液量	本剤の使用回数
フォリオゴールド(メタラキシルM・TPN [※] 水和剤)	収穫7日前まで	1,000倍	100~400 L/10a	3回以内
ダコニール1000(TPN [※] 水和剤)	収穫前日まで	1,000倍	100~400 L/10a	3回以内
プロポーズ顆粒水和剤/ワイドヒッター顆粒水和剤 (ベンチアパリカルブイソプロピル・TPN [※] 水和剤)	収穫前日まで	1,500倍	100~300 L/10a	3回以内

※ TPNを含む農薬の総使用回数は3回以内

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-860-3421
 (4月以降 TEL 018-881-3660)
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3327
 掲載HP <http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>